

ならちゆうしん経営研究会 例会報告
番外県外視察研修

日時 平成 29 年 8 月 25 日(金) ~ 26 日(土)

場所 県外視察 兵庫県豊岡市

内容 第 1 日目 8 月 25 日(金)

1. 企業視察 エンドー鞆株式会社
代表取締役 遠藤 玄一郎氏
(兵庫県豊岡市元町 10-2)
鞆袋物の製造卸売業ならびに輸出入業
2. 講演会 講師 豊岡ナチュラルファーム
代表 中井 勇一氏
テーマ「豊岡にiターン 農業で独立の道」

第 2 日目 8 月 26 日(土)

3. 現地視察 中井勇一氏 圃場見学
(兵庫県豊岡市但東町佐田地区)

今回は、当会増田顧問の発案により、番外県外研修として、元会員の中井勇一氏を訪ねて、兵庫県豊岡市への視察研修を実施いたしました。

(豊岡市について)

豊岡市は、平成 17 年 4 月 1 日、兵庫県の北東部に位置する 1 市 5 町（豊岡市、城崎町、竹野町、日高町、出石町、但東町）が合併してできたまちで、人口は、平成 28 年 4 月現在 81,596 人、面積は兵庫県内最大の 697.55 k m²、市内総生産 2,789 億円の北兵庫の中心都市です。

北は日本海、東は京都府に接し、中央部には円山川が悠々と流れています。海岸部は山陰海岸国立公園、山岳部は氷ノ山後山那岐山国定公園に指定され、多彩な四季を織りなす自然環境に恵まれています。

平成 17 年 9 月には、国の特別天然記念物・コウノトリが放鳥され、平成 19 年 7 月には、国内の自然界では 46 年ぶりにひなが巣立つなど、人里で野生復帰を目指す世界的にも例がない取組みが行われています。

産業は、農林水産業、観光業などが盛んです。特に観光業では、全国的に有名な城崎温泉をはじめ、西日本屈指の神鍋高原スキー場、但馬の小京都出石城下町などを有し、年間の観光客は 400 万人以上にのぼっています。また、地場産業としては、全国の 4 大産地の 1 つである「かばん」や出石焼などの生産が行われています。

(エンドー鞆株式会社視察)

エンドー鞆株式会社さんは、豊岡市の中心市街地にある豊岡カバンストリート沿いにあり、創業は江戸時代文政7年(1824年)で、今年で創業193年となり、鞆業界では日本で一番歴史のある会社であるとのことです。

今回の視察研修にあたり、但馬信用金庫さんよりご紹介を頂きました。社長の遠藤玄一郎氏は、豊岡鞆協会の会長も務められています。最初に同社の工房「嘉玄」を見学させて頂きました。そして、店舗見学に続いて遠藤社長よりご講義を頂きました。神代の時代、天日槍命(あめのひぼこのみこと)により伝えられた柳行李を発祥とする豊岡鞆の歴史、古くは奈良時代東大寺正倉院の宝物のなかにも豊岡でつくられた柳行李が納められているとのことです。豊岡鞆は、柳行李からファイバー製(パルプや古紙を原料とした素材)トランクケース、革製品、ナイロン製品とお客様の要望に対応し変化していくことで鞆日本一の地位を確立したとのことです。



続いて遠藤社長の企業経営の信条についてお話を頂きました。

- ・バックを通じ地域社会に貢献し、地方から発信できる企業を目指す。
- ・経営の安定を図ると共に、社員の守れる企業である。
- ・創業1824年の歴史を重んじながら、常にチャレンジを続ける企業である。

上記企業理念のもと、道具としての鞆(バッグ)にこだわり、機能性、使いやすさを重視したモノづくりは、消費者や小売店から高い評価を受けておられます。

エンドー鞆株式会社さん、但馬信用金庫さんには今回の視察研修に多大なるご協力を頂きまして誠にありがとうございました。



(中井勇一氏講演会)

初日の夜は、中井勇一氏より、「豊岡に i ターン 農業で独立の道」とのテーマでご講演を頂きました。中井氏は、農薬を使わずに、良いお米を作れないかと、奈良を離れ、千葉県の上房総にて、水稻の冬季湛水不耕起栽培を勉強されました。そして、関西に戻り、冬季湛水不耕起栽培が出来る場所を求めて、自治体や各団体に就農相談をしたところ、行き着いたのが豊岡市だったとのこと。豊岡市が推進する「コウノトリ育む農法」は冬季湛水不耕起栽培に極めて近い農法であり、目指す稲作が出来る場所として、豊岡に移住されました。講演では、コンクリート製品の製造業から、農業に業種転換されるに際しての数々のご苦労談をお話頂きました。

(中井勇一氏農場視察)

2日目は、朝より中井氏の農場を見学させて頂きました。今年の4月より、山間の自然豊かな豊岡市但東町佐田地区に、水稻 2ha、ピーマン 10a、スイートコーン 40a を栽培されています。農地は兵庫県みどりの公社農地中間管理機構の仲介による使用貸借契約で取得されたとのこと。農耕機械は中古品を安く購入したり、大規模農家から有償で借りたり、離農者の機械を無償で借りたりと、初期コストを抑えたとのこと。



同地区における新規就農者は中井氏 1 者だけで、地域の皆さんに助けられながら、付加価値の高い稲作栽培の新規展開に、日々研究、創意工夫を繰り返し、奥様とお二人で取り組んでおられました。

中井氏の、これからの益々の発展を祈念申し上げます。